令和６年度

全国学力・学習状況調査結果及び対策

［令和６年４月調査］

令　和　７　年　１　月

鹿児島市教育委員会

目　次

Ⅰ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
　１　調査の概要・・・２

　２　教科に関する調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

　３　質問調査結果　・・３

　４　正答数分布グラフ（小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

　５　正答数分布グラフ（中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅲ　学力調査分析（国語、算数・数学）
　１　調査の結果から見える本市国語科教育の課題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

　２　調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について・・・・・・・・・・・・・・８

　３　学力向上に向けた小中学校の取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

Ⅳ　児童生徒及び学校に対する質問調査＜抜粋＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

※表紙の画像は、Microsoft Copilotを利用して生成しました。

Ⅰ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、令和６年度「全国学力・学習状況調査」における鹿児島市に関係するものでである。ついては、各学校において本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図っていただきたい。

１　本報告書の構成について

概要は、次のような構成となっている。

Ⅰ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方
Ⅱ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
　１　調査の概要
　２　教科に関する調査結果
　３　質問調査結果
　４　正答数分布グラフ（小学校）
　５　正答数分布グラフ（中学校）
Ⅲ　学力調査分析（国語、算数・数学）
　１　調査の結果から見える本市国語科教育の課題について
　２　調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について
　３　学力向上に向けた小中学校の取組について
Ⅳ　児童生徒及び学校に対する質問調査〈抜粋〉

２　本報告書の活用について

⑴ 調査の目的や内容、各教科の平均正答率、質問調査の結果等について知りたいとき

「Ⅱ　令和６年度『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」(２、３ページ)において、調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問調査結果において特徴的なもの等について説明してある。また、各教科ごとの正答数分布グラフ（４、５ページ）では、分布の状況などを見ることにより、詳しく集団の状況を把握することができる。

⑵ 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき

「Ⅲ　１、２　学力調査分析」(国語６ページ、算数・数学８ページ）において、小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明してある。改善のポイントについても、小中共通や小学校、中学校別に説明してある。

⑶ 学力向上に向けた取組について知りたいとき

「Ⅲ　３　学力向上に向けた小中学校の取組について」（１０～１３ページ）において、令和４～６年度の調査で実施教科の平均正答率が全国を上回っている学校へ学力向上に関する取組の調査を行い、小学校、中学校、教科別にまとめた。授業改善について知りたいときは「Ｒ６年度 鹿児島市みんなで実践～令和５年度鹿児島学習定着度調査の結果をもとに～」「令和２年度改訂版かごんまよか授業」（鹿児島市教育委員会）を活用していただきたい。

⑷ 児童生徒の学習状況を知りたいとき

「Ⅳ　児童生徒及び学校に対する質問調査＜抜粋＞」（１４～２６ページ）において、児童生徒に対する質問については１４ページ以降、学校に対する質問については１９ページ以降に掲載してある。

本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小・中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくした。また、本市の「よく行った」、「どちらかといえば行った」等の肯定的な回答をした割合と、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合の二つの数値を示し全国と比較している。各学校の結果と比較できるように、表に貴校の結果も記入できる欄を設けている。既に詳細な分析は各学校で進められているところだが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を確認していただきたい。

Ⅱ　令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

１　調査の概要

(1) 調査の目的

ア　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ　学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ　上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数			
		本市	県㈫	全国㈫	教科	市	県㈫	全国㈫
小学校	６年生	７６校	４６６校	18,468校	国語	5,174人	13,419人	947,364人
					算数	5,171人	13,420人	947,579人
中学校	３年生	３８校	２０７校	9,268校	国語	4,879人	12,804人	875,574人
					数学	4,885人	12,817人	875,952人

(3) 調査の内容

ア　教科に関する調査（調査対象：小学校６年生、中学校３年生）
〔国語、算数・数学〕
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
調査問題では、上記の①と②を一体的に問う。

イ　質問調査（調査対象：小学校６年生、中学校３年生、小・中学校）
〔生活習慣や学習環境等に関する調査〕

(4) 調査日　　令和６年　４月１８日（火）

２　教科に関する調査結果

（平均正答率％）

学校種	小学校		中学校	
教　科	国　語	算　数	国　語	数　学
本　市	７０ （９．９/１４問）	６５ （１０．３/１６問）	５９ （８．８/１５問）	５２ （８．４/１６問）
県	６９ （９．６/１４問）	６２ （１０．０/１６問）	５６ （８．４/１５問）	５０ （８．０/１６問）
全　国	６７．７ （９．５/１４問）	６３．４ （１０．１/１６問）	５８．１ （８．７/１５問）	５２．５ （８．４/１６問）

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

小・中学校国語、小学校算数においては、県・全国平均を上回った。中学校数学は、県平均は上回ったが、全国平均をやや下回った。

３　質問調査結果

（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は％）

(1)　児童生徒に対する質問　【質問数　小学校７３問　中学校７５問】

（質問文は一部省略）

質問番号				小学校	中学校
9	自分には、よいところがあると思いますか ※　「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		本　市	８３．４	８２．１
			県	８２．１	８２．６
			全　国	８４．１	８３．３

				小学校	中学校
１６	学校に行くのは楽しいと思いますか ※　「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		本　市	８８．３	８６．１
			県	８７．６	８６．２
			全　国	８４．８	８３．８

				小学校	中学校
２７	前学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか ※　週３回以上と回答した割合		本　市	７２．３	５７．４
			県	６８．８	６４．９
			全　国	５９．５	６４．４

				小学校	中学校
国 ４２	国語、算数・数学の勉強は好きですか ※　「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国語	本　市	６４．４	６２．７
			県	６２．４	６３．３
			全　国	６２．０	６４．３
算・数 ５０		算・数	本　市	６４．６	５７．７
			県	６３．７	５６．９
			全　国	６１．０	５７．２

本市において、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。一方で、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。また、「前学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週３回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ小学校は高く、中学校は低い。

「国語を好き」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低いが、他の教科は高い。

(2)　学校に対する質問　【質問数　小学校８１問　中学校８５問】（質問文は一部省略）

			小学校	中学校
３７	学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行いましたか ※　「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	本　市	８９．４	９４．７
		県	９４．４	９５．１
		全　国	９４．２	９４．０

			小学校	中学校
３５	各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか ※　「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	本　市	８９．５	９２．１
		県	９１．６	８４．４
		全　国	８５．７	７８．６

			小学校	中学校
小 ５８ 中 ６２	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させましたか ※　週３回以上と回答した学校の割合	本　市	７７．６	７３．６
		県	７８．７	６３．０
		全　国	５５．１	５１．９

「学級生活をよりよくするために、学級会（活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行った」と回答した割合は、全国に比べ小学校は低く、中学校は高い。

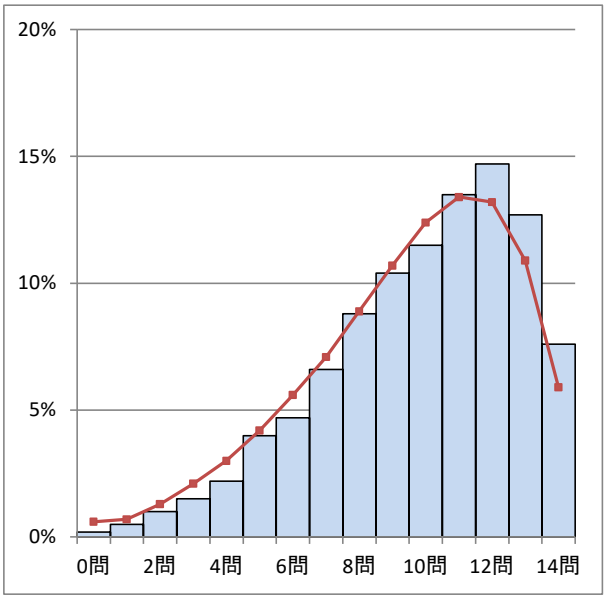
「各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用させた」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校・中学校共に高い。

4　正答数分布グラフ（小学校）

（※横軸：正答数、縦軸：児童数の割合　※棒グラフ：鹿児島市、折れ線グラフ：全国）

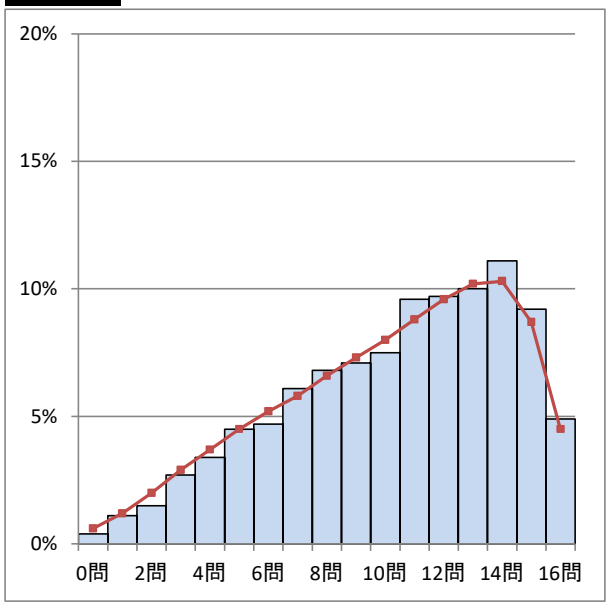
小学校

国語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.9 ／ 14	70	10	2.9
全国	9.5 ／ 14	67.7	10	3.1

算数



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.3 ／ 16	65	11	3.8
全国	10.1 ／ 16	63.4	11	3.9

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない（データの値が全てが同じ）ことを意味する。

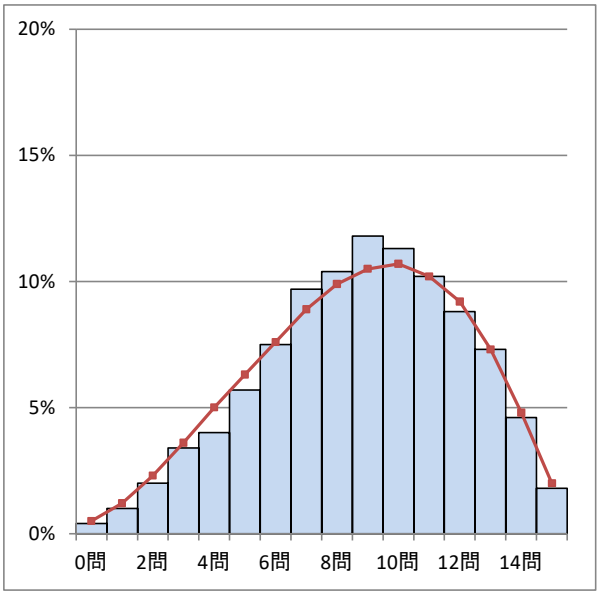
※〔平均値－標準偏差〕以上〔平均値+標準偏差〕以下にデータ全体の約68％が含まれているといわれている。
例えば、本市の小学校国語について、平均正答数が9.9、標準偏差が2.9であるので、7問から12．8問（約13問）の間に、本市の小学6年生の約68％が含まれているということがいえる。

５　正答数分布グラフ（中学校）

（※横軸：正答数、縦軸：生徒数の割合　※棒グラフ：鹿児島市、折れ線グラフ：全国）

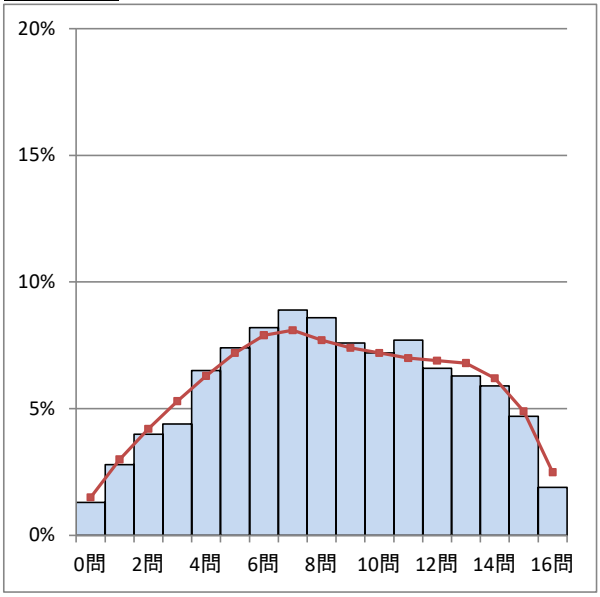
中学校

国語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	8.8 ／ 15	59	9.0	3.2
全国	8.7 ／ 15	58.1	9.0	3.4

数学



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	8.4 ／ 16	52	8.0	4.0
全国	8.4 ／ 16	52.5	8.0	4.1

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない（データの値が全てが同じ）ことを意味する。

※〔平均値－標準偏差〕以上〔平均値+標準偏差〕以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれている。
例えば、本市の中学校国語について、平均正答数が8.8、標準偏差が3.2であるので、5．6問（約6問）から12問の間に、本市の中学3年生の約68%が含まれているということがいえる。

Ⅲ　学力調査分析（国語、算数・数学）

１　調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

	課題の見られた問題の出題の趣旨、領域等【正答率、全国との比較】
小学校	・　資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する （思）話すこと・聞くこと5・6年ウ 1二（2）【５７．７、＋４．８】 ・　目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する （思）話すこと・聞くこと5・6年ア 1三　　【６３．０、－０．８】
中学校	・　必要に応じて質問しながら話の内容を捉える （思）話すこと・聞くこと1年エ 1一　　【６０．２、－３．０】 ・　文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する （思）読むこと2年ウ 2一　　【３６．３、±０．０】

(1)　**国語科の調査結果**

小学校は、平均正答率の全体が、全国、県を上回っており、学習指導要領の内容に基づく全ての領域でも、全国、県の正答率を上回っている。中学校も、平均正答率の全体は、全国、県を上回っているが、学習指導要領の内容に基づく領域別では、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」が全国をやや下回っている。

問題形式別では、小学校・中学校ともに、「選択式」「短答式」「記述式」の全ての形式で、全国、県を上回ってはいるが、中学校では「記述式」の平均正答率が５割を下回った。

(2)　**本市国語科の課題**

・　小学校では、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」について課題が見られる。

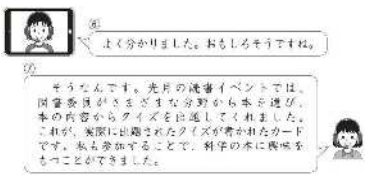
・　中学校では、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること」、「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」に課題が見られる。

	小学校	中学校
本市（全国）	70（67.7）	59（58.1）
正答率全国比	＋２．３	＋０．９
本市中央値（全国）	10.0（10.0）	9.0（9.0）

(3)　**課題を示す特徴的な問題《学校の取組をオンラインで紹介し合う問題》**

【小学校　問題1二】

（２）和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう



１　相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。

２　相手が興味をもっていることに気づき、相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。

３　相手が興味をもっていないことに気づき、相手が興味をもっていないことに気づき、相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

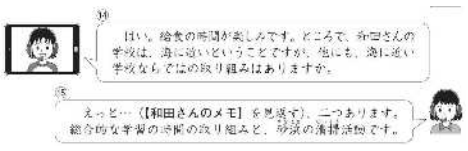
４　相手が興味をもっていることに気づき、相手が興味をもっていないことに気づき、相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

【本市正答率】５７．７％（全国比+4.8）

実際に交流する場面では、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定するとともに、資料の提示の仕方について検討する時間を設ける必要がある。

【小学校　問題1三】

三　和田さんは、【オンライン交流の様子の一部】をふり返り、発言⑮のところで、【和田さんのメモ】が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



１　相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

２　相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報をまとめて伝えることができた。

３　自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

４　自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

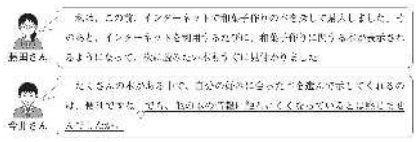
【本市正答率】６３．０％（全国比−0.8）

実際の交流後に、設問のように学習を振り返る場面を設定し、情報を整理することのよさを考えることができるようにする必要がある。

《資料をもとに、グループで話題を決めて話し合う問題》

【中学校　問題1】

一　【話し合いの一部】の――線部①「でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。



1　藤田さんの経験が、【フィルターバブル現象の資料】の内容に当てはまるかどうかを確認しようとしている。
2　藤田さんの経験が、【フィルターバブル現象の資料】の内容とは関係していないことを明らかにしようとしている。
3　藤田さんの経験をもとに、【フィルターバブル現象の資料】の内容に反対する意見を述べようとしている。
4　藤田さんの経験をもとに、【フィルターバブル現象の資料】の内容に誤りがあることを指摘しようとしている。

【本市正答率】６０．２％（全国比-3.0）

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題が見られ、話合いの目的や話題を意識し、話合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりできるように指導する必要がある。

《説明的な文章を読んで、内容を解釈する問題》

【中学校　問題2】

一　「図　さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

1　実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
2　実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
3　葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
4　葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

【本市正答率】３６．３％（全国比±0.0）

説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げ、内容を解釈するために、それぞれどの部分とどの部分とが関連しているのかを確認するように指導する必要がある。

(4)　児童生徒質問との関連

「国語の勉強が好き」と回答した児童生徒は６割程度だが、「国語の勉強は大切」、「国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う」と回答した児童生徒は９割を超えている。国語の大切さは十分に理解できているので、学習者が主体となるような魅力的な授業づくりをしていく必要がある。

新聞を読む頻度が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られるが、新聞を「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童生徒は１割にも満たない。10年前の調査では、新聞をほぼ毎日読むと回答したのは、全国平均が小学校10・1％、中学校が８・２％だったが、そのときに比べて全国平均も下がっている。授業で新聞を活用したり、学校図書館の新聞複数紙配備を進めたりするなど、新聞に親しむ環境づくりをしていく必要がある。あわせて、読書活動の充実も図っていきたい。

番号	質問内容		本市	全国比
小42 中42	国語の勉強は好きか。	小	64.4	+2.4
		中	62.7	−1.6
小43 中43	国語の勉強は大切か。	小	95.0	+0.5
		中	94.7	+0.8
小45 中45	国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思うか。	小	93.3	+0.1
		中	92.9	+2.3
小24 中24	新聞をほぼ毎日読んでいる。	小	3.2	−0.5
		中	1.8	−0.3

(5)　改善のポイント・実践例

【小中共通】

○　学校全体で取り組む組織的な検証改善
・　学校全体として、特に学習指導を改善し、定着を図る必要がある指導項目は何かを明らかにし、学校全体で組織的に指導を行う。
・　課題となっている項目は、いつ（時期）、どのように（単元、指導方法等）指導しているか確かめ、年間計画を見直すなどの改善策を検討する。

○　児童生徒の一人一人の学習状況に応じた指導
・　全ての児童生徒に身に付けさせたい力を明確にし、一人一人の学習状況を把握する。
・　一人一人のつまずきに応じた指導を行う。そのために、教師による一斉指導だけではなく、問題解決的な学習過程や学習形態を工夫するなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

【小学校】

・　目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、表現を工夫するような活動の充実を図る。

【中学校】

・　話合いの話題や展開を捉えながら、発言を結び付けて自分の考えをまとめるような活動の充実を図る。

2　調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

(1) 算数・数学科の調査結果

小学校は全国の平均正答率を１．６ポイント上回った。しかし中学校は、全国を０．５ポイント下回った。

項	算　数	数　学
本市正答率	６５	５２
全国正答率	６３．４	５２．５
全国比	＋１．６	－０．５

(2) 本市算数・数学の課題

- 小学校は特に、問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ技能をみる問題、はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ問題、家から図書館までの自転車の速さが分速何ｍかを求める問題において課題が見られた。
- 中学校は特に、ｎを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれｎを用いた式で表す技能をみる問題、等式６ｘ＋２ｙ＝１をｙについて解く技能をみる問題、１８Ｌの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する表現力をみる問題において課題が見られた。

	出題の趣旨【正答率　全国との比較】
算数	・ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。 1（1）【59.1 -3.0】 ・ 数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。 1（2）【85.9 -2.6】 ・ 速さの意味について理解しているかどうかをみる。 4（4）【51.8 -2.3】
数学	・ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。 1（1）【30.7 -4.1】 ・ 等式を目的に応じて変形することができる。 1（2）【48.0 -4.5】 ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 8（2）【13.7 -3.4】

(3) 課題を示す特徴的な問題

【算数・問題1（1）】

ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。
ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。
こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下の ア から エ までの中から１つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　72 + 28
イ　72 − 28
ウ　72 × 28
エ　72 ÷ 28

【本市正答率 59.1%】　[全国比－3.0]

問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを問う問題である。
授業改善の方向性として、数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるように、指導することが考えられる。

【算数・問題1（2）】

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。
ゆうまさんから38枚もらって、全部で62枚になりました。
このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として式に表します。
下の ア から エ までの中から、正しい式を１つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　62 + 38 = □
イ　□ + 38 = 62
ウ　□ − 62 = 38
エ　□ − 38 = 62

【本市正答率 85.9%】　[全国比－2.6]

数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかを問う問題である。
授業改善の方向性として、未知の数量を表す記号として□などを用いて、問題場面どおりに数量の関係を式に表すことができるよう繰り返し指導することが考えられる。問題場面の数量の関係を、児童自身が図でまとめる活動を適宜取り入れることも有効であると考えられる。

【数学・問題1（1）】

1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。nを整数とするとき、連続する2つの偶数を、それぞれnを用いた式で表しなさい。

【本市正答率 30.7%】　　[全国比－4.1]

連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題である。
授業改善の方向性として、連続する二つの偶数等をｎを用いて表現し、そのｎに具体的な数を当てはめる活動を実施することが考えられる。

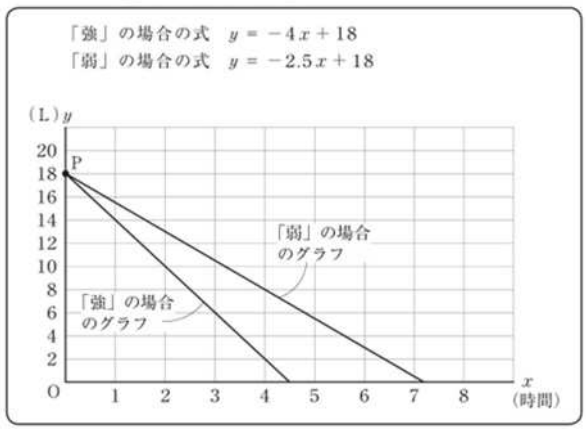
【数学・問題1（2）】

2 等式 $6x+2y=1$ を、yについて解きなさい。

【本市正答率 48.0%】　　[全国比－4.5]

誤答の中には、「－３ｘ＋１」と答える生徒が多かった。
授業改善の方向性として、等式の変形について、繰り返し指導を行うことが考えられる。本問題のような場合「－６ｘ÷２＋１÷２」と計算する必要があることなど、ポイントを反復して指導することが考えられる。

【数学・問題８（2）】



（2）前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア　「強」の場合の式 $y=-4x+18$ と「弱」の場合の式 $y=-2.5x+18$

イ　「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

【本市正答率 13.7%】　　[全国比－3.4]

数学的に表現したことを事象に即して解釈できるかどうかを見る問題である。
授業改善の方向性としては、学習課題に対する解答を求めた後に、その方法を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、いきなり完璧な説明を求めるのではなく、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面などを振り返りながら、十分な説明にしていく場面を設定することが考えらえる。

(4) 児童生徒質問との関連

【児童生徒質問の結果】

①　算数・数学の勉強は好きですか。
②　算数･数学の授業で学習したことは､将来､社会に出たとき、役に立つと思いますか。

	番号	本市(%)	全国(%)	差
算数	①	６４．６	６１．０	＋３．６
	②	９４．８	９４．１	＋０．７
数学	①	５７．７	５７．２	＋０．５
	②	８０．９	７８．５	＋２．４

（本市児童生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合）

算数・数学に対する興味・関心について、小学校は全国を３．６ポイント、中学校は０．５ポイント上回った。社会での有用性について、小学校は全国を０．７ポイント、中学校は２．４ポイント上回った。
昨年度も同様の傾向が見られ、本市児童生徒は、数学的活動により算数・数学を学ぶよさを味わうとともに、算数・数学の問題発見・解決の過程において培われた数学的な見方・考え方が、社会の中での意思決定や判断を行っていく上で有効に働くことを実感できていると考えられる。

(5) 授業改善のポイント

ア　算数

本年度全国を下回った問題の全てが､「知識・技能」を測るものであった。<u>授業終末５分程度の適用問題（練習問題）を確実に実施する</u>ことで、さらに学力の向上が見込めると考えられる。

イ　数学

本年度全国を下回った問題のほとんどが、市の正答率が低い問題に集中していた。今後は<u>数学を得意とする生徒への対応を充実させる</u>ことが必要だと考えられる。

３　学力向上に向けた小中学校の取組について

令和４～６年度の全国学力・学習状況調査において、実施教科（国語、算数・数学）の平均正答率が全国の平均正答率を３年間上回っている小・中学校から、各教科の学力向上に関する取組について調査を行い、校種、教科別にまとめました。

(1) 小学校

ア　国語

(ｱ)　指導方法の多様化

・個別学習、ペア・グループ討議をバランスよく活用している
・板書では「流れ」を視覚化し、児童が次の展開を見通せるように工夫している
　例：物語の起承転結を明確にする板書

(ｲ)　デジタルとアナログの併用

・授業で毎回タブレットを活用する一方、ノートに記録する時間を必ず確保している
　例：タブレットでアイデアを共有し、ノートで学びを整理

(ｳ)　漢字学習の徹底

・毎回授業の始めに漢字小テストを実施し、間違いは即時訂正する時間を設けている
・熟語や対義語を含む「応用漢字問題」を日記に活用させている

(ｴ)　読解力の強化

・長文読解では、設問に下線を引かせてポイントを明確にさせている
・登場人物の気持ちや段落構成など、物語や説明文に必要な視点を意識させている

(ｵ)　学年別工夫

・低学年→教科書の「ことばの宝箱」をビンゴ形式にして楽しく活用している
・高学年→俳句や短作文などの新聞投稿による「表現の磨き上げ」を重視している

(ｶ)　振り返りと読書活動

・単元終了時に、児童が自分の成長を振り返る時間を設定している
・図書館利用促進のため、年間貸出目標を設定し読書習慣の定着を図っている

イ　算数

(ｱ)　基礎計算力の徹底

・毎回授業の始めに「１００マス計算」や「３分間計算」を行い基礎力定着を図っている
　例：四則演算や円の面積計算（３．１４）をスムーズにする反復学習

(ｲ)　論理的思考の養成

・「まず」「次に」「だから」など接続詞を活用し、計算過程を文章で説明させている

(ｳ)　学習目標の統一

・各学年で統一された「指導目標」「板書の型」を共有している
　例：「問題文を読み、設問にアンダーラインを引く」など共通ルールの徹底

(ｴ)　ＩＣＴの活用

・デジタルドリルやタブレットを使った練習問題を繰り返し実施している
・かごしま学力向上支援Ｗｅｂシステムの問題を紙媒体で活用し基礎力定着を図っている

(ｵ)　思考力を高める問題設定

・難問や発展問題に挑戦させ、「どうしてそうなるか」を説明させる時間を設けている
　例：矢印や図を使って式の成り立ちを説明

(ｶ)　振り返りと反復練習

・単元テストの問題を理解できるまで繰り返し練習させている
・家庭学習ではその日の授業と関連している計算ドリルや文章問題の宿題を課す

(2) 中学校

ア　国語

(ｱ)　基礎力の徹底

・毎回授業の始めに漢字テストや文法テストを５分間実施している
・定期的に単元ごとの小テストを行い、生徒間で採点させている

(ｲ)　主体的・対話的な学び

・振り返りシートを活用して、学習の成果や課題を生徒自身に記録させている
・グループ活動で意見交換を促進させ、多面的に考えを深めさせている

(ｳ)　ＩＣＴの活用

・ロイロノートによる作品提出や相互評価を行っている
・短歌や俳句を作成し、タブレットを用いて提出させている

(ｴ)　読解力の育成

・シンキングツールを活用し、比較の観点を自分で設定して文章を整理させている
・新聞ワークシートを用いて、多様な文章を読み比べる活動を展開している

(ｵ)　家庭学習の推進

・漢字練習帳を文形式で書くなど工夫し、家庭学習の充実を図っている
・古文の音読を課題にし、音読プリントを配布している

イ　数学

(ｱ)　基礎計算の反復練習

・毎回授業の始めに計算プリントを解き、答案返却後に解説や訂正を実施している
　例：平方根や式の計算を基礎から発展まで幅広く実施
・毎回授業の始めに基礎計算の小テストを実施している
　例：因数分解、平方根の計算、式の展開
・１年生では正負の数、２年生では連立方程式、３年生では式の展開を中心に、段階的な問題を設定し、解答後すぐに答え合わせを行い、理解が浅い部分について習熟する時間を設けている

(ｲ)　ＩＣＴの活用

・デジタルドリルを利用し、生徒個々のペースで問題に取り組ませている
・過去の問題や発展問題をデータベース化し、自由に活用できる仕組みを整備している
・デジタル教科書やシミュレーションソフトを用いて、関数や図形の動きを視覚化している
　例：二次関数の頂点移動をデジタル画面上で確認し、変化をリアルタイムで追う活動を行っている
・「ナビマ」などのアプリを使い、生徒が好きな時間に学習できるよう環境を整備している
　例：正解数や学習時間がアプリ上で記録され、教師が進捗を確認できるようしている

(ｳ)　視覚的学びの工夫

・図形分野では教具や実物模型を活用し、理解を深めさせている
・デジタル教材と実物を組み合わせ、図形のイメージを具体化している
・図形問題では、紙やデジタルツールを活用した視覚化を徹底している
・空間図形の学習では実物模型（立体図形）を活用し、回転や展開図を直感的に理解させている
　例：三角形の内角の和が１８０度であることを、実際に切り貼りして証明する活動を行っている

(ｴ)　学習形態の工夫

・問題を解いた後に互いに解法を説明し合う時間を設けている
・少人数指導で学力差に応じた個別フォローを実施している
・２学年ではクラスを分割した少人数指導を行っている。
・発展クラスでは、高校入試を意識した応用問題に取り組ませ、説明力の強化を図っている

・定期テスト返却時に、得点が低かった生徒に対しては追加課題を与え、放課後のフォローアップ指導を実施している
例：分数の計算が定着していない生徒には、基礎計算の復習プリントを活用した反復指導を行っている

(オ) 長期的な学習指導・応用力の育成

・鹿児島学習定着度調査の過去問を定期的に活用し、長期的な復習を実施している
・長期休業中に、特別課題として難問や発展問題を設定している
例：夏休み中に「関数と図形の融合問題」を課題として取り組ませ、個別に添削指導を行っている
・鹿児島学習定着度調査や公立・私立高校の入試問題を小テストとして活用している
例：関数や図形問題を中心に、大問１～２を毎回授業で行っている
・定期テストで入試問題に近い難易度の問題を一部出題し、入試を見据えた学習習慣の定着を図っている
例：「なぜこの図形の面積が求められるのか」を説明させる発展問題を行っている
・家庭学習での取り組み方を具体化したガイドを配布している
例：計算ドリルを毎日３問解くやタブレットアプリで数学クイズに挑戦するなどの課題を提示している
・入試問題や定着度調査の過去問を、家庭学習課題として毎週配布している

(カ) 思考力・表現力の養成

・設問に対する「なぜそうなるのか」を説明する時間を設けている
・「まず」「次に」「そして」「だから」といった接続詞を活用し、論理的に説明する練習を定期的に実施している
例：比例・反比例のグラフを描く際、「なぜこのグラフが右上がりになるのか」を生徒に口頭やノート（文章）で説明させている

(キ) 振り返りと学びの見える化

・授業の終わりに、理解した内容やわからなかった内容を書き出す時間を設けている
・生徒が記述した振り返りシートを基に、教師が授業改善や次の授業計画を立てている
・単元テスト後、自己採点を行い、できなかった問題の原因を自己分析させている
例：問題のどの部分でミスが生じたかを振り返る専用シートを作成し、活用している
・学期ごとに「できるようになりたいこと」を書かせ、それに対する達成度を生徒と教師で確認している
例：２次方程式の解法をマスターすることを目標にした場合、類似問題で解答スピードを測定している

(ク) 生徒のモチベーションアップ

・テストの点数が上がった生徒にシールやメダルを渡す仕組みを導入している
・数学の好きな生徒には、難問へのチャレンジや問題作成を任せるなどさせている
・「数学コーナー」を設置し、学年共通の目標や課題、優秀者の名前を掲示している
例：月ごとに優秀な問題解答例や、入試模擬問題で高得点を取った生徒の成果を展示している

(3) 小・中学校に共通した取組

ア 学習プロセスの定着

・「つかむ→見通す→活動する→振り返る」等、一連の学習プロセスを徹底している
・振り返り活動で自己の成長と目標達成度を可視化している

イ ＩＣＴの活用

・ロイロノートやタブレットで学習内容を共有し、思考を深めさせている
・学校全体でＩＣＴ研修を実施し、教員のスキル向上を図っている

ウ　家庭学習の充実

・家庭学習の手引きや宿題を工夫し、基礎力と発展力のバランスを確保している
・保護者との連携を強化し、家庭学習を持続的に支援している

エ　教員間の協働

・職員研修や相互授業参観を通じて指導法の改善を図っている
・教材研究や統一指導目標の共有で全体の資質向上を図っている

Ⅳ　児童生徒及び学校に対する質問調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋しました（単位は％）。
空欄に貴校のデータを書き込み（入力）、全国や本市と比較してください。
児童生徒に対する質問調査結果の空欄には、貴校の割合（％）を、学校質問調査結果の空欄には、①～④等の回答を書き込み（入力）、比較しましょう（エクセルデータをSee-Smile（配布物管理）でも配信します。）。
□の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう（全て記入する必要なし〈対策の重点化〉）。

・　上段は、「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答した割合
　下段は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合
・　↑は、昨年度と比較し、2ポイント以上上回っていたもの、↓は、2ポイント以上下回っていたもの（上段のみ）
・　※は、昨年度、質問項目になかったもの

【児童生徒に対する質問調査結果〈抜粋〉】

基本的生活習慣等に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
1	朝食を毎日食べていますか		94.4	0.7		92.7	1.5
			84.2	0.8		82.5	3.4
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		↑ 84.0	1.1		↑ 84.6	3.9
			37.8	-1.9		37.1	2.2
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		91.9	0.3		94.1	1.6
			55.6	-0.5		59.5	4.2
4	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） ◆上段は、２時間以上と回答した割合 　下段は、３時間以上と回答した割合		7.0	-0.5		5.7	-0.4
			2.4	-0.8		1.7	-0.6
※5	普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか ◆上段は、３時間以上と回答した割合 　下段は、４時間以上と回答した割合		21.3	-9.0		16.3	-12.7
			11.4	-6.3		7.9	-8.7
※6	普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ◆上段は、３時間以上と回答した割合 　下段は、４時間以上と回答した割合		14.7	-6.0		16.9	-15.6
			7.5	-4.4		8.2	-10.0
※7	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか		73.4	2.3		75.4	3.2
			40.2	0.8		35.1	1.1
※8	健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか		84.4	2.1		79.0	2.3
			36.4	1.9		29.5	1.1

【分析・対策】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
9	自分には、よいところがあると思いますか		↑ 83.4	-0.7		↑ 82.1	-1.2
			38.0	-5.4		37.1	-3.3
10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		↓ 89.7	-0.2		↓ 89.0	-1.4
			43.9	-4.9		37.4	-6.8
11	将来の夢や目標を持っていますか		86.4	4.0		↑ 69.4	3.1
			65.5	4.9		39.7	3.6
12	人が困っているときは、進んで助けていますか		92.6	-0.1		90.8	0.7
			44.3	-1.7		37.6	-0.7
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		96.7	0.0		96.8	1.1
			78.8	-0.7		79.8	2.3
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか		67.2	0.1		↑ 66.8	-0.7
			26.7	-3.5		24.8	-3.9
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか		95.8	-0.1		96.2	1.0
			70.6	-0.5		70.1	1.5
16	学校に行くのは楽しいと思いますか		88.3	3.5		↑ 86.1	2.3
			52.3	5.1		44.3	0.8
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか		78.7	2.9		78.3	2.1
			30.8	0.5		28.9	-1.4
18	友達関係に満足していますか		92.1	1.0		91.4	1.3
			64.5	2.1		54.2	-0.8
19	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか		93.6	1.9		↑ 89.9	0.1
			50.4	-0.4		42.4	-2.2

【分析・対策】

学習習慣等に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか		82.3	1.6		78.4	-0.2
			30.4	0.1		27.6	-0.6
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、２時間以上と回答した割合 下段は、３時間以上と回答した割合 ※令和４年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		↓ 22.9	-0.6		35.2	3.5
			9.0	-2.0		8.6	-0.6
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、３時間以上と回答した割合 下段は、４時間以上と回答した割合 ※令和４年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		9.2	-2.4		17.3	1.8
			4.8	-2.5		5.4	-0.3
23	【小学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） 【中学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） ◆１段目は、５０１冊以上と回答した割合 ２段目は、２０１～５００冊と回答した割合 ３段目は、１０１～２００冊と回答した割合 ※令和４年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		3.6	-1.1		2.6	-0.8
			8.1	-2.1		7.8	-2.1
			15.3	-1.7		13.4	-1.6
24	新聞を読んでいますか		11.1	-0.5		6.6	-0.7
			3.2	-0.5		1.8	-0.3

【分析・対策】

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		↑ 83.8	0.3		↑ 75.6	-0.5
			35.7	-1.1		25.2	-1.2

【分析・対策】

ＩＣＴを活用した学習状況に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
27	５年生〔１、２年生のとき〕までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか		↑ 72.3	12.8		↑ 57.4	-7.0
	◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		31.7	6.4		25.3	-5.7
※28－1	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる		87.5	2.0		78.8	-1.4
			34.0	0.2		25.8	-2.9
※28－2	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる		92.9	0.8		91.9	-2.0
			57.0	-1.4		56.1	-6.7
※28－3	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（３）楽しみながら学習を進めることができる		87.7	1.7		84.2	1.8
			46.8	-0.1		38.3	-0.8
※28－4	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる		90.0	0.2		88.0	-1.0
			47.0	-0.6		39.6	-3.3
※28－5	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる		81.1	1.9		76.1	-1.6
			34.5	1.2		26.8	-3.3
※28－6	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる		90.1	4.0		87.6	1.4
			51.1	6.5		41.0	0.0
※28－7	５年生〔１、２年生のとき〕までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（７）友達と協力しながら学習を進めることができる		88.5	1.4		84.5	-0.7
			47.1	0.9		37.9	-1.9

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
29	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		↑ 60.3	-7.3		↑ 52.8	-12.0
			22.5	-3.4		15.6	-6.6
30	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか		↑ 82.3	0.4		78.0	-2.3
			28.8	-0.7		23.3	-3.9
31	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか		↑ 80.7	1.1		↑ 72.0	-3.4
			29.6	-0.1		20.5	-4.2

32	５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか		↑	87.5	3.2		↑ 78.7	-2.2
				37.4	3.0		20.5	-4.4
33	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか		↑	87.6	1.3		↑ 86.2	0.1
				41.2	-0.2		34.0	-2.4
34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか		↑	83.7	2.9		↑ 78.3	0.4
				33.7	1.8		26.0	-1.1
※35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか			85.1	1.4		79.1	0.1
				34.7	-1.2		25.0	-2.5
36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか		↓	90.4	2.5		↓ 82.4	-2.5
				47.4	0.1		30.1	-5.4
※37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか			91.8	0.2		91.6	-0.7
				43.5	-4.3		42.3	-3.8

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科　道徳に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか		↑ 83.4	2.1		↑ 82.5	0.3
			38.8	2.3		32.9	-0.8
39	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか		↑ 83.3	-0.9		↑ 84.2	-2.1
			33.2	-3.1		29.5	-6.0
40	学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか		↑ 83.2	0.7		↑ 79.4	-1.2
			33.9	-1.0		27.4	-2.8
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか		↑ 88.1	-0.1		↑ 93.3	1.6
			45.6	-1.7		51.7	1.9

【分析・対策】

【学校質問調査結果〈抜粋〉】

生徒指導等

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
7	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか		↓ 86.8	1.3		↑ 92.1	-1.7
			42.1	3.2		63.2	5.3
10	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか		94.7	7.2		↓ 84.3	7.0
			75	15.5		63.2	16.5

【分析・対策】

学校運営に関する状況

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
11	ＩＣＴを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか		100.0	0.9		100.0	1.5
			39.5	6.7		31.6	2.8
※12	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか		98.7	1.4		97.3	3.3
			48.7	9.9		36.8	1.4
13	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか		↑ 100	3.0		↑ 97.4	0.9
			42.1	1.7		39.5	-1.0
14	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか		↑ 98.7	1.4		↑ 94.7	2.9
			42.1	-6.0		36.8	0.8

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
25	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか		↑ 96.1	7.9		↑ 97.4	9.0
			15.8	-4.3		21.1	0.5
26	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか		↓ 81.6	3.3		↑ 92.1	9.4
			7.9	-4.5		15.8	-0.4
27	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか		86.8	-0.4		↑ 92.1	2.4
			11.8	-7.8		26.3	2.3

※28	調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか			90.8	-2.8		92.1	-4.0
				25	-6.7		34.2	-2.8
※29	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか			72.4	11.2		55.3	0.0
				6.6	-2.6		15.8	7.9
30	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか		↑	94.7	4.4		↓ 92.2	5.9
				27.6	1.1		21.1	-0.1
31	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか		↓	97.4	2.9		↓ 94.7	0.7
				31.6	-1.2		28.9	-1.5
※32	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか			96.1	0.3		100.0	3.7
				32.9	-1.1		26.3	-5.1
33	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか		↑	94.7	5.4		↓ 81.6	-3.5
				26.3	-2.9		23.7	-2.4
34	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか		↑	93.4	6.0		84.3	-2.3
				28.9	8.6		21.1	2.0
35	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか		↑	89.5	3.8		↑ 92.1	13.5
				14.5	-4.1		10.5	-4.3

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科　道徳の指導方法

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
36	調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか		94.7	2.8		↑ 89.4	-1.5
			27.6	-5.5		28.9	-8.8
37	調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか		↓ 89.4	-4.8		↑ 94.7	0.7
			27.6	-9.5		26.3	-11.6
38	調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか		↑ 97.4	4.8		↑ 89.5	-2.9
			25	-7.1		23.7	-8.5
39	調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか		↑ 94.7	-1.3		97.4	1.1
			40.8	5.6		31.6	-10.6

【分析・対策】

学習評価

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※40	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか		90.8	3.7		94.7	3.5
			21.1	-1.5		28.9	-2.0

【分析・対策】

国語科の指導方法に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※41	【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか		93.5	3.5		94.8	0.9
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか		22.4	2.9		23.7	-5.0
※42	【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか		96.1	3.5		92.1	0.6
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか		23.7	1.5		23.7	-6.0
※43	【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか		97.4	2.5		100.0	4.2
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか		32.9	3.1		36.8	-2.6
44	【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか		98.7	1.8		100.0	4.6
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか		35.5	0.0		36.8	1.5

【分析・対策】

算数・数学科の指導方法に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
45	調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか		94.8	2.5		↑ 94.8	6.3
			23.7	-3.9		13.2	-9.1
46	【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか		92.1	-2.5		↑ 92.1	6.4
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか		27.6	-8.3		18.4	-4.3
※47	【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか		92.1	-4.1		94.8	0.0
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか		40.8	-3.2		21.1	-20.5
※48	【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか		96.1	1.3		94.7	-0.8
	【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか		38.2	-0.3		15.8	-26.5

【分析・対策】

理科の指導方法に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
※49	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか		98.7	3.4		97.4	1.9
			40.8	8.1		26.3	-6.7
※50	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか		96	0.0		100.0	3.0
			44.7	8.0		28.9	-13.9
※51	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか		96	1.2		94.7	10.6
			44.7	6.0		18.4	-7.8

【分析・対策】

外国語（英語）の指導方法に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小52	【小学校】学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか		↑ 92.1	17.3		100.0	5.5
中52	【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか		14.5	-3.5		44.7	6.5
中53	【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか					100.0	3.8
						36.8	-5.0
中54	【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか					↑ 89.5	10.2
						34.2	9.4
中55	【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか					↑ 94.8	6.4
						31.6	-2.3
中56	【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか					94.7	2.2
						28.9	-5.8

ＩＣＴを活用した学習状況に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小53	前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）のＩＣＴ機器を活用した授業を１クラス当たりどの程度行いましたか		93.4	0.5		↑ 92.1	0.2
中57	◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		78.9	2.9		68.4	-6.2
小54	教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか		100	4.9		100.0	9.2
中58			77.6	17.1		73.7	21.7
小55	コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか		↑ 97.4	8.5		↓ 94.7	10.1
中59			42.1	3.1		42.1	7.0
小56	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか		97.4	4.2		↑ 86.8	-4.0
中60	◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		84.2	15.2		60.5	-7.0
小57	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか		88.2	11.6		↑ 76.3	5.9
中61	◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		55.3	22.6		26.3	-6.7
小58	調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか		77.6	22.5		↑ 73.6	21.7
中62	◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		44.7	25.0		28.9	9.5

小59 中63	教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑	85.5	25.8		↑	68.4	11.0
				52.6	20.5			39.5	8.4
小60 中64	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↓	67.1	22.1		↑	60.5	19.4
				27.6	10.2			23.7	6.8
小61 中65	調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑	69.7	16.9		↑	52.6	10.4
				27.6	8.3			10.5	-4.3
小62 中66	前年度に、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って、児童生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか ◆上段は、月１回以上と回答した割合 下段は、週１回以上と回答した割合			2.6	-3.8		↑	5.2	0.2
				1.3	-0.7			2.6	1.0
小63 中67	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度活用していますか		↑	78.9	7.2		↑	81.6	8.7
				35.5	-1.0			47.4	9.3
小64 中68	児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ◆１段は、毎日持ち帰って、毎日利用させている ２段は、毎日持ち帰って、時々利用させている ３段は、時々持ち帰って、時々利用させている ４段は、持ち帰らせていない ５段は、持ち帰ってはいけないこととしている ６段は、臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしていると回答した割合			11.8	-10.1			10.5	-16.1
				2.6	-11.7			13.2	-5.7
				82.9	-32.8			60.5	21.6
				1.3	-6.0			10.5	1.8
				0.0	-1.0			0.0	-1.7
				1.3	-4.0			5.3	0.2
小65-1 中69-1	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（１）不登校児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↓	31.6	4.7		↑	39.5	1.0
				18.4	1.8			26.3	-0.4
※小65-2 ※中69-2	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（２）希望する不登校児童に対する授業配信 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合			27.7	5.3			18.5	-17.1
				22.4	6.7			13.2	-15.5
小65-3 中69-3	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（３）特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合			67.1	18.6		↓	50.0	1.1
				48.7	17.2			28.9	-4.8
小65-4 中69-4	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（４）外国人児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑	7.9	-6.4		↓	0.0	-15.6
				5.3	-4.3			0.0	-11.3
小65-5 中69-5	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（５）児童の心身の状況の把握 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合			17.1	-11.4		↑	21.1	-12.0
				14.5	-11.6			21.1	-9.6
小65-6 中69-6	児童[生徒]一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（６）児童に対するオンラインを活用した相談・支援 ◆上段は、週３回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑	5.2	-3.1		↑	7.9	-3.3
				2.6	-3.8			2.6	-6.3

【分析・対策】

特別支援教育に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
小67	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか		↑ 98.7	3.8		↓ 89.4	-4.6
中71			52.6	7.9		28.9	-12.2

【分析・対策】

小学校教育と中学校教育の連携に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
小68	前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか		↑ 88.1	24.1		↓ 79.0	10.0
中72			18.4	-0.4		7.9	-16.9

【分析・対策】

家庭や地域連携に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
小70	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか		↑ 98.7	9.8		↑ 97.4	13.3
中74			31.6	-5.1		15.8	-12.8

【分析・対策】

家庭学習に関すること

	質問事項	小学校 本校	小学校 鹿児島市	小学校 全国比	中学校 本校	中学校 鹿児島市	中学校 全国比
小71	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか		↑ 98.7	2.6		↓ 94.8	2.9
中75			51.3	4.1		23.7	-9.2
※小72	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか		97.3	7.6		↓ 94.8	10.8
※中76			35.5	-0.5		13.2	-11.5
小73	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか		↓ 93.4	5.6		97.4	14.6
中77			34.2	6.5		26.3	4.7

【分析・対策】

全国学力・学習状況調査の結果等の活用に関すること

	質問事項	小学校			中学校		
		本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小74	令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか		100	3.2		100.0	5.9
中78			48.7	14.1		21.1	-6.0
小75	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか		98.7	5.9		↑ 100.0	10.7
中79			43.4	11.7		28.9	3.3
小76	令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）		100	10.5		↑ 100.0	16.8
中80			59.2	33.1		36.8	13.5

【分析・対策】